

火力発電所の事故とその対応に係る 検討のポイント

令和3年12月24日
産業保安グループ
電力安全課

○ 検討のポイント

- 本年4月に発生した火力発電所の事故とその対応に係る審議に当たっては、以下の視点で行ってはどうか。

(1) 原因究明の妥当性等

- ⇒ ○ 事故発生メカニズムについて、十分な解明がなされているか。
- 原因究明（設計・製造、保守管理等）は、十分に検証されているか。

(2) 再発防止対策の妥当性等

- ⇒ ○ 再発防止対策は、(1)を踏まえ、十分なものになっているか。
- 同種設備等に対する水平展開（注意喚起）は、適正に行われているか。

(3) 国による対応

- ⇒ ○ 今回事故の教訓を踏まえ、クレーン等高所かつ構造上負荷が集中する設備等については、地上からの目視だけではなく、適切な方法等を用いて確実な点検を実施するよう、経済産業省と厚生労働省が連携して注意喚起していく。

(参考)

- 揚炭機の破損事故を踏まえ、電力大で事故情報を共有し、電気事業用工作物として全国に設置された揚炭機（計51基）については、全て異常がないことを確認済み。
- 爆発事故を起こした循環流動層式ボイラと同型のボイラは、国内に当該メーカーのものしか存在せず、稼働中のボイラ（計9缶）については、全て異常がないことを確認済み。